

目的 小学校家庭科教育は、子供達の日常生活を基盤として、指導を行うべきだと考える。そのためには家庭科専門教授者が出張を行うのではなく、子供達の生活実態をよく知っている担任教授者が指導することが望ましい。しかし担任が家庭科の学習指導経験や生活経験そのものが少ない教師、特に男子教師の場合、生活の見つめさせ方や技術指導などに不備な点が生じやすい。その結果家庭科指導の最終目標である生活に生かす実践力を育てることが不十分となり、単なる物作り教育に終わることが多かった。そこで今回は教授・学習指導の改善をした授業設計でフィードバックさせ、各種のデータ解析を行ったので報告する。

方法 授業をVTRで記録し、授業分析を行った。

調査対象者 家庭科専門女教師3名 家庭科専門外男子教師2名 教育実習生2名 学習者各40～43人

結果 学習指導設計を用いた授業実践を行った結果を家庭科専門外の男子教師(B)を中心に比較検討した。その結果改善された点は、(1)総授業時間数の短縮(2)生活意欲の向上(3)問題解決学習の成立(4)学習ノートの有効的活用(5)作品の向上(6)指導ポイントの明確化(7)VTRの効果的活用であり、問題点は、(1)自分の生活を見つめた課題作り(2)技術指導の系統性(3)使用目的を考慮したエプロン製作(4)学習ノートの有効的活用であった。